

会議録

会議の名称	男女平等参画推進委員会 平成21年度 第15回
開催日時	平成22年2月10日（水曜日） 午後7時から9時まで
開催場所	イングビル第4会議室
出席者	委員：池田委員、青木委員、大野委員、虎頭委員、高木委員、角田委員 富田委員、中村委員、北條委員、渡辺委員、寺内委員 欠席：西山委員 事務局：藤巻係長、貫井主任
議題	1 第14回男女平等参画推進委員会会議録の確認について 2 第1次男女平等参画推進計画実績5ヵ年総評価報告書について 3 評価シートについて 4 その他
会議資料の名称	1 第14回西東京市男女平等参画推進委員会会議録 2 評価シート作成版（案）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>開会</p> <p>○委員長： 今年度最後の会議となる。議題に入る前に、事務局から報告事項等をお願いする。</p> <p>○事務局： 「第1次男女平等参画推進計画実績5ヵ年総評価報告書」の最終稿を配布する。報告については、1月28日午後4時30分から、正副委員長にお越しいただき、市長に直接提出していただいた。</p> <p><u>1 第14回男女平等参画推進委員会会議録の確認</u></p> <p>○委員長： 第14回会議録についてなにかあるか。</p> <p>○渡辺委員： 3ページの下から10行目、「1. 事業目標又は」を「1. 事業目標又は」に訂正願う。</p> <p>○委員長： 2ページの上から5行目、「理解するとでいう事で」を「理解するという事で」に、また4ページの下から12行目「21年度中に執行するや、検討中」を「21年度中に執行する（検討中）」に訂正願う。</p>	

○委員長：

他になれば訂正し、承認とする。

2 第1次男女平等参画推進計画実績5ヵ年総評価報告書について

○委員長：

「第1次男女平等参画推進計画実績5ヵ年総評価報告書」を市長に報告した時の様子を正副委員長より述べて頂く。

○委員長：

男女平等参画推進計画の中身についての話には至らなかった。市長から「男女平等参画推進について、全体的に経済が潤っていたときは抵抗感、違和感がなかったが、経済状況悪化のなか、企業などから建前だけではやっていけないなどかなり本音が出され、かなり厳しい状況ではないか。」という意見、感想があった。

また、西東京市としてのこれから何処に重点を置くかなど、方向性については、「市議会の中で、子どもの権利条約に関して、権利の捉え方として、権利は義務を伴い、子どもはあくまで未成年であるという捉え方もあり、個人名を挙げバッシングがあった。男女平等についてもかなり難しい。」と言う意見があり、西東京市はさらに頑張ると言う言及には至らなかった。

それに対して、こちらの意見として「男女平等参画推進の方向性は、歴史的に逆戻りさせてよいものではない。それに対するバックラッシュや、男女や企業などから、ある意味での「本音」が出されているこの時期は、逆にこの方向性を、じっくり検証するいい時期なのではないか。今こそ、男女平等とは何か、がためされるのではないのでしょうか。」と述べた。

基本的にはその方向でやっていくとのことでしたが、状況を見ながら、着実に推進させて行くための方策を探っていかななくてはと、こちらでは理解した。回りでサポートしたりしないとかなり難しいと感じた。

○委員：

全体の感想としては、委員長が述べたとおりである。男女平等参画推進条例の検討をお願いしたが、なかなか難しいとの回答だった。委員長が「時期を見ながらタイミングを見て行っていただきたい」とお願いした。他に私は「この5年間、男女平等参画に対して、企業との連携がない。もう少し何らかの連携を持って市の中に伝播していけたらよい」とお願いした。他は「男女平等推進センター パリテの活性化」を話した。市長を動かすには、まだまだアクションをしなければ、と感じた。

○委員：

委員長、委員2人の話したことに尽きる。内容については成果に関する議論もあるが「これからの課題」「パリテの有効活用」「男女平等参画推進条例制定に向けた検討」だった。とりわけ受けた印象は、積極的にすすめたい気持ちが少しは見られるが、それをすぐ消してしまうように、置かれた厳しい状況を話していて、色々な周りからのサポートが2つも3つも必要だどという印象を受けた。

○委員長：

以上答申の状況だが、意見、質問はあるか。

○委員長：

答申の表紙（提出年）を訂正願いたい。

3 評価シートについて

○委員長：

第13回会議で、共通認識された内容（担当課および評価する側も記載しやすい形式にする）を元に「男女平等参画推進計画実施評価シート」を事務局から提示いただいた。前会議で、項目の表現方法と、それを各課に詳細に示すことが有効になると議論された。参考資料について事務局から説明願いたい。

○事務局：

評価シートについては前回の議論を元に修正作成した。各課の記載事項について、表の上段に示したとおり担当課の記載欄を1.「具体的な事業又は取組み」2.「事業評価（執行状況含む）」3.「次年度の課題」の3つの区分に整理した。また、2つの事業事例で記載例を作成した。表の上段の記述については平成21年度の評価依頼時、委員会の議論を庁内に伝えるため各課に対する指示事項を記述した。本日修正案について議論いただき第2次計画に対する評価シートを確定願いたい。

○委員長：

意見等あるか。

○委員：

シート作成のポイント（記載方法）中、1.「具体的な事業又は取組み」の当該年度における取組みと、2.「事業評価（執行状況含む）」の当該年度の具体的な取組み状況にどのような違いがあるか。

○委員長：

「具体的な事業又は取組み」についてはあくまでも取組みの計画、「事業評価（執行状況含む）」については、計画に対しての取組みの執行状況ということになる。

○委員：

「具体的な事業又は取組み」について当該年度における取組み計画に変えたほうがよい。

○委員：

賛成。

○委員長：

前回の流れを説明する。1.「具体的な事業又は取組み」欄は「施策内容」が既に計画であること、また目標という言葉が前提となっていたが目標が抽象的になることから取組みにした。カッコ書きで計画を入れるか。

- 委員：
カッコはなくてもよい。
- 委員：
では、2.「事業評価（執行状況）」もカッコを取るか。
- 委員：
執行状況を先にし、2.「執行状況・事業評価」がよい。
- 委員：
シート作成のポイント（記載方法）の3.「次年度の課題」など説明箇所について、「具体的な事業又は取組み計画と執行計画・事業評価を踏まえ…」のように決定した文言に合わせ整理修正する必要がある。
- 委員長：
では1.「具体的な事業又は取組み計画」2.「執行状況・事業評価」とし、それに合わせシート作成のポイント（記載方法）も整理修正する。他に意見あるか。
- 委員：
作成留意点の2行目、「21年度評価からは、新たに課長級職員で構成する**検討機関**を設置し、提出されたシート内容を確認する。中略、庁内議論を踏まえ、ヒヤリング又は修正指示が想定される」とあるが、どのような流れになるか。
- 事務局：
前会議の説明では、現在事務局と所管課が書面でのみやり取りをし、内容を委員会で評価いただく形式になっている。今後一層の体制強化を図るため、審議評価をいただく前に、庁内で調整検討する。この表示は各課へのプレッシャーに繋がる。
- 委員：
確か何年か前の委員会で、現在の形式は所管課と委員会のキャッチボールを行い、良好な関係（ネットワーク）を作るということが目的として確認されたはず。よって毎年、各課へ「委員会としては皆様と男女平等参画を推進したいので、是非ご協力いただきたい」という意思を伝える文書を添付しているはず、再度確認願う。
- 委員長：
この委員会で評価するときもヒヤリングを行っている。この文面では「21年度評価からは、新たに課長級職員で構成する**検討機関**を設置し、提出されたシート内容を確認する。中略、庁内議論を踏まえ、ヒヤリング又は修正指示が想定される」とあるが、今までの「西東京市男女平等推進会議設置要綱」との位置付けの違い、および新たに検討機関を設置し、提出されたシートを確認、検証、庁内議論、修正指示まで行うとあるが、今までと進行が変わる。詳細を説明願う。

○事務局：

検討機関を設置することにより、事前に出されたシートを検証してより良いものにしてから、委員会に提出できる。また各課危機感をもって行う。

○委員：

良いものとはどういうことを指すか。また各課長クラスが検証する意味は何か。

○事務局：

今までの各課のものを見ても、意味が理解しがたい文面があった。

○委員：

各課長に男女平等参画を認識していただく目的で行うのであれば、良いものに繋がる。

○事務局：

今までは担当課のみだが、課長クラスで協議すれば、いろいろな意見がでる。

○委員：

今までも、ぎりぎりでの期限で評価していた。評価する前に日数がかかる。このシステムは円滑、有効に活用できるか。

○委員：

基本的に、我々委員会は提出された実績に対し評価することにこだわり、対応すればよい。庁内において各計画の調整を行うなどは検討機関に任せて問題はない。また逆に委員会として文体を含めて議論しないほうが分かりやすい。委員が心配していることは、年度内にできるよう従来どおり位置づけ、評価する。そのために雛形の作成留意点をもっとシンプルにして、有効活用していただき、新たに必要であれば別の方法で庁内に意識してもらえばよい。

○委員長：

A委員の意見は「21年度評価からは、新たに課長級職員で構成する検討機関を設置し、提出されたシート内容を確認する。中略、庁内議論を踏まえ、ヒヤリング又は修正指示が想定される」をシンプルにし削除するという意見。B委員の意見は、年度内にできるよう、時間的な配分が必要という意見。委員会へ提出する前に庁内の課長レベルで文言の統一など調整することは意味があると思うが、いかがか。

○委員：

庁内において他の委員会の計画全てに関わり、統一的に調整することは構わない。我々は届いた文書について、評価対応するので、あえて表示する必要はないのではないか。

○委員長：

では庁内の各計画の調整については、別のルートで言及していただく。

○事務局：

これは、職員にプレッシャーを与えることを狙いとしているので、記載があっても特段の意味はない。

○委員長：

では、そのままにすることよろしいか。

○委員：

各委員が幾つかの疑問を持っていることをお伝え願いたい。全面的に賛成したわけではない。

○委員長：

では、そこはそのままにする。

○委員長：

他に意見はあるか。

○委員：

前回議論されたかもしれませんが、再度確認したい。1.「具体的な事業又は取組み計画」は当該年度における取組み計画で、毎年書く内容が変わりうるということか。長期計画の場合、単年度ごとで取組み計画内容が変わりうる。毎年『A』評価を付けてよいのか。

○委員長：

それは考え方が、長期計画についてだが、いかがか。

○委員：

『第1男女平等参画推進計画実績5ヶ年総評価』では、どの領域も毎年段々『A』評価が多くなっているという評価をしたと思うが、それを私は立てた目標が段々満たされた結果だと理解した。それを単年度に変えるのであれば、今度は例えば初年度『C』評価ばかりで、最終数年度は『A』評価ばかりになる（またはその逆もありうるが）。つまり積極的に取組む年とそうでない年とで、ABCD評価に反映され、継続的な計画の単年度評価にばらつきが生じる。

○委員長：

しかし、中村委員の意見だと、逆に初年度などは予算の関係から単年度の部分計画になりますから、いつも長期の中で評価するとなると『C』評価ばかりになってしまう。私は当該年度計画ごとに評価をしてきた。5カ年の総評価は今回のように、まとめの年に5カ年を通して総評価をすればよいと思うが、意見はないか。

○委員：

『A』評価の数が単年度の積み上げでは多く、5カ年総合評価（長期計画）時、少なく

てもよいのではないか。

○委員：

前会議で決定されたことなら問題ないが、今までの評価方法とは、筋合いが違うと思う。長期計画に対して積み上げの評価をしてきた。

○委員：

今年から参加したのであまり分からないが、たしか当該年度の目標に対して、実際何処まで実施したかという、評価で良いのではないか。

○委員：

例えば単年度では実施が難しいものについて、成果目標では調査検討を行うとある。執行状況で他の市の調査を実施したが、評価では新規事業で実施されることを望むとあり「C」評価となっている。これはまさしくこの事例に当たる。行政側としては全てを単年度で行うことが当然出来ない。

○委員：

第2次男女平等参画推進計画の主な取り組み『セクシャル・ハラスメント等の訴訟費用の貸付制度導入の検討』の文言についてだが、確かこの計画作成時、『セクシャル・ハラスメント等の訴訟費用の貸付制度導入』とすることには、予算的にも、また調査が終わっていない段階ではできないという理由で『中略…導入の検討』にした経緯がある。評価が大変難しい。しかし担当課事業評価の箇所に他市（豊中市）の事例を記載するのはおかしい。

○委員長：

A委員の評価については、先程B委員の当該年度の目標に対して、実際何処まで実施したかという、『単年度評価』で良いのではないか。その中で、全体の長期的計画に対し、その当該年度の「具体的な事業又は取組み計画」の目標があまりに微々たる内容であったり、その計画に相応しくなければ、当然『事業評価』のなかに明記する。

○委員：

解りました。

○委員：

元々の設定目標が低くすぎることはあり得る。ハードルを上げた目標にして欲しいなど、コメントを付けることで対処すればよい。

○委員：

事業評価上こちらの判断で例えば『B』評価をつけることもあり得るのか、事業目標、成果目標の立て方に対して評価する。

○委員：

予算の関係もある。予算が取れていないのに、そこまで言及できるのか。無理なこと

ではないか。

○委員：

あくまでも計画自体は行政が立てるもの、そこまで言及してよいかと思ってはいた。では委員会は出てきた『具体的な事業又は取組み計画』に対してシンプルに評価すればよいか。

○委員長：

先程言ったように、評価方法の基本的な考え方として、立てられた「具体的な事業又は取組み計画」に対して、当該年度で何処まで到達したかという、評価になる。ただ、予算要求の仕方に関して、または予算確定であればその内で、いかに事業を行うかなど、評価として意見を述べることができる。無条件ではない。

○委員：

われわれ委員の最後のコメントの部分が、新たな目標設定に繋がり、それを例えば、先程の課長級の検討機関で、チェックしていただくとよい。

○委員：

となると、課長級職員で構成する検討機関の設置は、留意点に記載するか否かは別として有効ですね。

○委員：

記載例について、最終的にむしろシンプルにこの太線部分だけを記載した方が、評価する側もしやすい。

○委員：

膨大な分量になると思うので、シンプルにするのに私も賛成です。

○委員長：

記載例について要点を絞ってもっとシンプルにという意見がでた。他にあるか。

○委員：

同じ意見だが、「具体的な事業又は取組み計画」の箇所に前置き（男女平等に関する理解促進を図るため）はその都度必要か。

○委員：

具体的に書いて欲しいと我々委員会でお願ひしたのだから、記載例も具体的に記載したほうが職員の参考になる。

○委員長：

この記載例の中には、庁内の職員啓発という狙いがあるようだが、もう少しシンプルにさせていただく。他に意見あるか。

○委員：

シート作成のポイント（記載方法）の委員会で評価する説明箇所『男女平等参画推進委員会事業評価』について、庁内評価結果を踏まえ…とあり、ここで評価結果という文言を使用しているが、評価結果は参画推進委員会を出すはず。庁内の課長級職員で構成する検討機関はあくまでも通過点のはず意味が解らない。

○委員長：

では、「庁内評価結果を踏まえ」を削除する。他にないか。なければ、次年度からの評価について以上のように決定する。

4 その他

○委員長：

今回は今年度最後の委員会になる。任期が平成22年度7月までである委員会で何をするか決める。事務局説明願う。

○事務局：

次回委員会は4月に組織改正に加え、人事異動も予想されるため、5月に開催願いたい。平成22年度はまだ内示段階だが、委員会が6回になる、条例については新しい委員の方で協議いただくようになる。日程のご協議をお願いする。

各委員協議

○委員長：

では、会議はあと1回とし、議題は1. 条例策定に向けてのフリートーキング2. 委員会の総括（次期委員会への引継ぎ事項）とし、平成21年度事業評価作業は7月以降になるので、時期委員会に任せる。以前配られた条例の資料に目を通してきていただきたい。他にないか。

○委員：

委員が副実行委員長であるパリテまつりの報告を、また事務局から来年度男女平等参画推進の予算について報告願いたい。

○事務局：

2つ事業は削られたが、例年どおりである。

○委員：

実行委員長が体調を崩し、代わりに副委員長の私が進めた。樋口恵子氏は快く引き受けていただいたが、樋口さん側の日程がダブルブッキングし日程を変更し、イベントの山が2回できてしまった。参加者300名を超え、予備の部屋も満員であった。樋口氏のネームバリューとタイトルのお陰か集客力がすごかった。ハプニングがあったが大盛会だった。現在まつりは開催中で来週もあるが、参加団体が増え、輪が広がり定着していく事を期待する。我々の目的である「老いも若きも女も男も元気になれる」が達成された。会場設営時、男性の参加も多くよかった。はなバスの増設を来年度の要望にして欲

しい。今後まつりから日常の参画にどのように繋げていくかが課題である。

○委員長：

大変お疲れさまでした。西東京市らしさを作り上げてほしい。以上閉会とする。

次回委員会 平成22年5月19日（水曜日）午後7時～9時 田無庁舎102会議室